

2020年2月14日  
 千代田化工建設株式会社  
 IR・広報・CSR部

**2020年3月期第3四半期決算説明会：質疑応答サマリー**

2020年2月4日に開催致しました2020年3月期第3四半期決算説明会（電話会議）において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

	質問	回答
1	キャメロン LNG のインセンティブはどれくらい利益の押し上げに寄与しているか。今後もインセンティブが発生する可能性はあるか。	キャメロン LNG の工事が順調に進んでおり、1月に予定したマイルストーンを12月に前倒しで達成した結果、インセンティブを獲得出来た。インセンティブの金額、今後の予定については顧客との守秘義務があるため回答を控えさせていただきます。
2	期初予定の完成工事総利率 7.4%をクリアしているのか。	通常の場合については期初に想定した完成工事粗利率を達成出来ている。
3	第 4 四半期の完成工事総利益率が 4.7%と低くなるのはなぜか。	第4四半期に想定していた利益の一部が第3四半期に前倒しになり期ずれが生じており、第3四半期と第4四半期をならして見て頂きたい。また、第4四半期についてはコロナウィルス等のリスクも織り込んでいる。
4	今後の受注の取り組み方はどうなのか。	手持ち案件の遂行に注力する一方、参画方法を絞るなど工夫しながら、顧客から期待を寄せられている案件に注力してきた。具体的案件では、カタール LNG、インドネシア銅製錬や国内案件について受注に向けた準備を進めている。昨年度の赤字決算の教訓を踏まえて、オーバーストレッチしない一方、受注案件で確実に利益化することで取り組んでいる。
5	販管費の圧縮は今後どうなのか？	第3四半期迄は前年比圧縮し合理化を進めてきている。第4四半期は期末要因で販管費が嵩む可能性はあるが、引き続き販管費をきちんとコントロールしていく。

6	新型コロナウイルスの影響として具体的にどのようなリスクが考えられるのか。	<p>現時点では当社の損益に影響はない。</p> <p>テキサスエチレン案件において中国のヤードでモジュール建設しており、新型コロナウイルスの問題が長期化した場合にはモジュール製作のスケジュールに影響を及ぼす可能性はある。</p> <p>当社に限らず、中国製品の調達や納期などに影響がある可能性を想定しておくべきと考えており、顧客と意見交換を行っている。</p> <p>第4四半期に一定のリスクを織り込んでいる。</p>
---	--------------------------------------	--

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。

従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。